

令和3年度「中学校組織力向上のための実践研究事業」

学校経営アドバイザー学校訪問

先日（7月15日[木]）、標記の指定に関わり、西部教育事務所の学校経営アドバイザーである松田先生と小谷野指導主事（本指定の中村中学校担当）、岡田指導主事（本指定の総括担当）、四万十市教育委員会の小野川指導主事による学校訪問がありました。

松田アドバイザーはみなさんもお存じのように、前年度まで本校の学校長として本校を築き上げてこられた方です。私も含め、新しいメンバーでの新体制になり、現段階の学校の取組や体制に対して、多くのご指導・ご助言をいただきました。

ここに、指導助言いただいたことをまとめさせていただいています。昨日の学年部長会では一足先に報告させていただきました。今月末の教科主任会でも再度、確認の時間を取りたいと考えていますが、一度みなさんにお伝えさせていただきます。

【訪問の主な内容】

- ・ 指定に関する取組説明（松本）
- ・ 授業参観（通覧）
- ・ 国語科教科会参観
- ・ 協議、学校経営アドバイザーからの指導・助言

* 「こんな取組をしていますか。」と質問を受けたことも、今後も常に意識すべき点としてまとめさせていただいています。
* 指導助言の分類分けも松本の考えにおいて行っています。

全教職員の意識統一

- 本指定は組織力の向上のためではなく、「子供に力を付けていく」「全教職員で全生徒を育てる」ための「組織力向上」であることをぶれずに取り組む。
- 高知県教育振興基本計画を基に、本校が受けている指定の意味を確認する。
- 全国調査の問題を全員で解く。
- 全国調査の問題を基に各教科で取り組むことを確認する。
- 総則を理解する。/ 確認する。
- 研究主題は全国調査の結果を受けて協議を行い、全員で意識して取り組む。
- 資質・能力で示した各教科の学習内容を基にカリキュラム・マップを作成し、交流を行う。

組織づくり・組織体制・OJT

- 組織図に主担当名を入れている意味を確認する。
- 年度途中から来年度の組織を構想し、各分掌のリーダーになってほしい教員にはその意向を伝えておく。心づもりを持ったうえで現リーダーの仕事内容や仕事ぶりを見させて次のリーダーを育成する。
- 主幹教諭は教科会や教科主任会の充実を図る。（タテのラインは主幹教諭の仕事であり、横のラインは教頭の仕事である。以前、あるエキスパートが、主幹教諭は教科会から徐々に手を離し、教科会を自立させるように言われていたが、高知県は主幹教諭の仕事として残している。）

教科会・教科主任会の持ち方

- 生徒のノートや板書、授業ビデオ、授業記録、生徒のつぶやき（○：○○の発言）を基に、エビデンスを基に授業を振り返り、授業づくりの方向性を確認する。
- 模擬授業を行う。他教科の教員にも参加してもらい、生徒の立場での意見や助言をもらう。
- 教科目標の柱書を基に授業づくりの3つの視点で授業を構想する（「資質・能力の明確化」「見方・考え方をどう働かせるか」「各教科の学習過程を描く」）。
- 学習指導要領を読み込み、単元で授業を描く（教科等横断的な視点や教科の系統性等含む）。

進捗管理

- 教科会のレジュメをファイリングさせ、教科会の内容を確認する。
- 「問題」「めあて」の入力を継続して行う。教科長に確認させ、進捗管理を行う。

教科を越えて/教科内で
そろえる・つなぐ・高める

「問題」の捉え：
「問題」はすぐには達成
できないもの
（西村先生）

今後へのアドバイス

- 数学は分割授業を実施していく。（分割で学力を付けてきているのは明らかである。）
- 西村先生に引き続き助言をいただける機会を設定する。（来校できなければ授業ビデオを送って助言をいただくという方法もある。）
- 授業は、生徒に正しい答えを求めていくというより、チャレンジして失敗する子を育成するというスタンスで行っていく。

松田アドバイザー、たくさんのご指導・ご助言をありがとうございました。

